

## 東カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ、ドミニカ（国）、グレナダ、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

（2020年9月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

### 1. 概況

- 東カリブ諸国の新型コロナウイルスの発生状況は落ち着いており、カリコムが設定した感染低リスクのカリブ旅行圏に多くの国が参加。
- グレナダで内閣一部改造が行われ、外務大臣にジョセフ前貿易産業大臣が就任した。
- 国連総会一般討論演説で、東カリブ諸国は、小島嶼国の脆弱性及び国際資金へのアクセスの重要性を強調した。
- OECS外務大臣会合及び持続可能な開発運動に関するサミットが開催され、共通の外交課題、小島嶼国から海洋国家への変遷などが議論された。

### 2. 内政

#### （1）新型コロナウイルス

- 1日付セントキッツ紙は、8月31日台湾は呼吸器4台、3千の即席検査キットを贈呈したと報道。
- 1日、グレナダ政府は、緊急事態規制を16日まで延長すると発表。規制内容は、外出制限はないが、営業許可店舗のみが営業可能等。
- 3日付セントキッツ紙は、同地に所在する米国のロス大学獣医学部の学生158人が復帰したと報道。
- 3日付セントビンセント紙は、インド名誉領事就任式でインドからの医療用品の寄贈が実施されたと報道。
- 4日付セントルシア紙は、台湾が呼吸器4台と検査キット3千個を寄贈したと報道。8日、同国政府は、新学期が開始される中で、台湾は教育省に1万枚のマスクを贈呈したと発表。
- 8日付セントキッツ紙は、米疾病予防管理センターは同国の危険度を最も低いレベルまで下げたと報道。
- 10日付セントキッツ紙は、同国に所在する米州医科大学はネイビス島保健省に10万枚のマスクを寄贈したと報道。
- 10日付セントルシア紙は、8日入国した米国人旅行者が陽性と確認され、9日送還されたと報道。
- 11日付セントキッツ紙は、政府は専任の職員からなる遵守作業部会を設置

し、規則遵守を監視すると報道。

● 17日付グレナダ紙は、中国大使館はグレナダ中国友好協会と協力して、貧困層に食料パック100個を贈呈したと報道。

● 18日、圏内からの入国者にPCR検査や検疫を免除するカリコム旅行圏が発足し、東カリブ6カ国は同圏に参加する新規感染発生数基準を満たしているが、セントキッツは国境閉鎖を当面継続すると発表。

## (2) その他内政

● 3日付セントキッツ紙は、議会で事前貨物情報法案が可決され、これは安全保障上の危険がある貨物や人物を特定するために関係国との情報共有を行うためのもので、カリコム諸国では初の法制化と報道。

● 9日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相夫人は脊髄嚢胞と闘病中で、次男は衰弱性癌と診断されたと報道。

● 12日付セントビンセント紙は、台湾は交通取り締まりのために警察に2台の白バイを寄贈したと報道。

● 13日、ミッチェル・グレナダ首相は、内閣一部改造（担当職務の一部変更）を発表し、外務大臣にはジョセフ前貿易産業大臣が、首相が兼任していた財務大臣にはポーエン前インフラ担当大臣が就任した。ミッチェル首相は、改造の理由として、各閣僚に異なる分野を経験させ、多面的な能力育成を図ると説明。

● 21日付セントビンセント紙は、保健省は4人がデング熱で死亡した兆候があるとして調査中と報道。28日付同紙は、セントビンセントでの患者は432人、4人死亡と報道。24日付グレナダ紙は、デング熱患者が先週の9人から29人に急増したと報道。

● 25～29日付アンティグア紙は、同国議会でバーブーダ島政府が要請した同島独立動議の討論が開始され、28日に採決されたが、否決された、バーブーダ島独立には更に国民投票で3分の2の賛成が必要と報道。

## 3. 経済

● 1日付ドミニカ紙は、スケリット首相は、新空港建設のために移転する47件の農家に補償支払いを開始すると発表したと報道。

● 13日付バルバドス紙は、ブラウン・アンティグア首相は、管財状態にあるLIAT航空に関して、多くの地域首脳が同航空への債務帳消しを約束したと述べたと報道。

● 14日、OECSは、ニュージーランドとOECSは地熱エネルギー開発を含めた環境持続可能性について協力を強化することで一致したと発表。

● 15日付セントルシア紙は、米国南部司令部人道支援プログラムを通じて、3万米ドル相当のハリケーン避難所の備品が国家緊急事態管理機関に寄贈された

と報道。

- 16日、セントルシア政府は、カナダはセントルシアの小学校教師用のノートパソコン調達に6万5千カナダドルの支援を行うと発表。
- 17日付ドミニカ紙は、日本がUNDPと連携して、ドミニカで実施した女性の災害管理能力強化計画を通じて、農業省に災害脆弱地域向けの四輪駆動トラック2台が引き渡されたと報道。
- 17日付グレナダ紙は、現地で建設事業に関与する中国企業が近くの採石場から無許可で採石を行い、現地企業との緊張が高まり、警察が呼ばれる事態になっていると報道。
- 20日付ドミニカ紙は、カリビアン航空のドミニカ・バルバドス間の初フライトが就航し、当面週2便だが、10月中旬には週4便に増便する予定と報道。
- 21日付アンティグア紙は、米州農業協力機関（IICA）は、バーブーダ島の農地保安強化のための鉄条網5エーカー分を寄贈したと報道。
- 22日付アンティグア紙は、ブラウン首相は、5エーカーの土地を中国建設の事務所に売却したが、中国か欧米企業に売却するかに相違はない、中国は当国の発展に最大の貢献を行っていると弁明したと報道。
- 22日付セントルシア紙は、7月の空港再開後に同国への訪問者数は7千人を超えたと報道。
- 26日付セントルシア紙は、カリブ開発銀行は、同国に対し、コロナ禍からの復興及び強靱性強化のため、4千万米ドルの借款を承認したと報道。
- 28日付アンティグア紙は、政府は、経済人向けに新たな長期滞在査証を開始し、有効期間は2年間、条件は同国で年収5万米ドル以上、国外企業との取引等は遠隔のみで行う等を内容とするとして発表したと報道。

#### 4. 外交

- 10日、OEC S外務大臣ビデオ会合が開催され、ブラントリー・セントキッツ外務大臣が議長を務め、アフリカ・カリブ・太平洋諸国機構（OACPS）とEUとの間のコトヌー条約後継交渉、EUの非協力的税制関連ブラックリスト、英国のEU離脱とそのCARIFORUM・英国経済関係への影響等が協議された。
- 10日付セントキッツ紙は、ハリス首相は、EU及びWHO共催のコロナ禍への世界的対応のハイレベル会合に、カリコムを代表して出席したと報道。
- 17日付セントビンセント紙は、台湾は、過去最高となる同国からの22人の奨学生を受け入れると発表したと報道。
- 21日に開会された国連総会で、東カリブ諸国は、首相乃至外務大臣が一般討論演説（ビデオメッセージ）を行い、小島嶼国のコロナ禍及び気候変動による脆

弱性、国際資金へのアクセスの重要性等を訴え、安保理改革の必要性、キューバ制裁批判等に言及する国も見られた。台湾承認3カ国は、台湾の国連等の国際機関での役割の重要性に言及した。

●22～24日、OECSは、持続可能な開発運動サミット（ビデオ会合）を開催し、官民からの代表が出席し、小島嶼国が大きな海洋国家に変遷するための方策などにつき議論された。

●23日、セントキッツ政府情報局は、ハリス首相は、菅総理の就任に祝辞を表明し、安倍前総理には在任中の協力を謝意を表明したと発表。

●30日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相及びブストレーカー外務大臣は、同日の国連生物多様性サミット会合に出席したと報道。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。